

うちのうみ

ぶし

# 内海たんと節

— 私わたしの生まれうれた町まち —



うちのうみこうかいどう  
内海公会堂 (安浦町史より)

私わたしが通かよっている内海うちのうみ小学校しょうがっこうの中なかにこのよううたな詩かが書かいてある看板かんばんがありうちのうみます。「内海うちのうみたんと節ぶし」を紹介しょうかいする看板かんばんです。なぜ学校がっこうの中なかにあるふしぎのか不思議おもに思こって校長こうちやう先生せんせいに聞きいてみきました。

「七ななつの子こ」「シャボン玉だま」などの歌うたで有名ゆうめいな童謡詩人どうやうしじん、野口雨情のぐちうじやうは昭和十二年しやうわねん（一九三七年）七月しちがつ、内海うちのうみにややつてきていていろいろな所ところを見みて歩あるき、そのすばらしこころさに心こころをうたれ、「内海うちのうみたんと節ぶし」を作つくりました。曲きよくは親交しんこうの深ふかかった呉市出身くれししゆっしんの作曲家さつきよくか、藤井清水ふじいきよみが

奥おくの道みち  
春はると秋あきとに二度にど咲さくさくら  
花はなは奥おく行いく 道端みちばたに

作つくったそそうです。

「奥おくの道みち」の詩うたは、内海うちのうみ公会堂こうかいどう（現在げんざいの内海うちのうみ小学校しょうがっこう屋内運動場うくないうんどうじやう）の入り口いぐちの側そばにああった春はると秋あきの年ねん二回にかい咲さく珍めづらしい桜さくらを詠うたったものものだと教おしえていたいただきました。

この詩うたの中なかには、その他ほかにも「明神みょうじんの棕むく」（平木ひらきの巖島神社いづくしまじんじや）、「八幡はちまんさま」（亀山かめやま八幡宮はちまんぐう）、「寺迫てらさこ

かんのおんどう さいふくじかんのおんどう  
観音堂（西福寺観音堂）など今も  
とうじ ようす  
当時の様子がうかがえる場所が出  
てきます。

こうして聞いて聞いているうちに、  
うちのおみ  
内海にはいわれのある場所、  
うつく  
美しいながめの場所があること  
がわかりました。

こんど  
今度は、詩に出てきたいろいろな  
ばしょ しら たず おも  
場所を調べて訪ねてみようと思  
います。

(注) ちゅう

① 野口雨情：明治十五年、茨城県に生まれる。「七  
つの子」「シャボン玉」など、多くの童謡を作詞した。

② 藤井清水：明治二十二年、呉市焼山に生まれる。

女学校で音楽を指導しながら作曲活動を行った。

### 内海たん節

#### 一、望郷

思いナ出しては 野呂山眺め  
恋し内海あの下に

#### 五、八幡さま

幟りナ祭りの 八幡さまは  
森にや椎の木大一位

#### 二、奥の道

春とナ秋とに 二度咲くさくら  
花は奥行く 道端に

#### 十一、寺迫観音堂

子安ナ観音 向こうの沖に  
柏島さえ ひとながめ

#### 四、明神の棕

棕のナ大木 たよりに藤は  
ゆられながらも 花が咲く

#### 十二、観音様

姿ナ御姿 観音様は  
刻む桜の 御本尊

(一部抜粋)